

唐宋元明清書畫家人名辭書

同 續篇

中山梨軒編

本書は人名辭書と題するも傳記を含むものではなくして、その副題に云ふ如く、支那書畫名家姓名字號捷覽である。かくの如き索引は畫家の方面を考へても魯駭の宋元以來畫人姓氏錄、馮津の歷代畫家姓氏便覽其他稍用に供し得るものがないでもない、併しながら或は採拾の範圍が狭く、或は排列方法が迂遠であつたりして兎角不便が多く、その完全と云はざるまでも少くもより便利なものゝ出現を望んで已まなかつたのである。

本書は書畫の史傳に關する著述約六七十種に就いて、その中の人名を據り、その名、字、號等より氏を求め得るやうに作製し、之を頭書文字の總劃により排列する。

引用書目を檢するに略その取つて以て材料とした所が允當であることを知り得る。固より完全を期する爲には尙幾多の書に就きて索引を作製すべきであるが、正編發行後三年の短時日に業に續篇四冊を世に問ふに至つた著者の罷勉を以てするならば尙嗣出の速ならんことを期待してよいであらう。而して正篇例言中に著者は、こゝに採録せられたる人名下に小傳を附する用意ある旨を述べてゐるが、吾人は寧ろ小傳の如きは措いてこの人名索引の遺を拾ひ、脱を補うて、少しでも廣く書畫人を集録することを切に希望する。更に望蜀の感を述べらるならば、人名下に日本出版の諸書の卷丁數を掲げて檢索に便ならしめてゐるが、尙之を支那に及ぼして、少くも佩文齋書畫家傳、歷代畫史彙傳位の丁數を附記されたならば更に利便を興ふること大なるものがあるであらう。(正木)

正篇 菊版 七冊 謄寫版刷 昭和七年四月 染香書院發行 定價十二圓
續篇 菊版 四冊 謄寫版刷 昭和九年三月 染香書院發行 定價八圓

大師會記念圖錄

去る四月二十一日東京小石川護國寺に開催された大師會の出陳品の圖錄である。特に今年が弘法大師の千百年遠忌に當れるを記念して編纂せられたもので、收むるところ左の五點である。

大師將來鍍金鈴 大師會藏
弘法大師筆座右銘 同
東山御物 夏珪筆山水圖 末延三次氏藏
東山御物 牧溪筆老子圖 同
東山御物 牧溪筆江天暮雪圖 同

すべて精玉の作なることは云ふまでもない。三點の繪畫は表裝共の全圖に畫面のみの大圖を添へてゐる。此種の展觀に於ける最も贅澤なる圖錄の一である。(渡邊)

和裝四六四倍判 コロタイプ八葉 昭和九年六月十五日 大師會發行 非賣品

美術研究所時報

寄贈圖書

名作屏風畫展覽會圖錄 其一・二 帝室博物館
日本國寶全集付解説 第五九・六〇輯 文部省
黃檗畫像志 西村貞著 著者
工藝講演集 大阪府工業獎勵館 大阪府工業獎勵館
鳥類寫生圖譜 第四期第一―三輯 啓明會
H. de Villemessant: L'Autographe. Evénements de 1870—1871. I & II.
L'Autographe et L'Autographe aux Salons de 1864 et de 1865.